

Swift News

Vol.7 July 2023

CONTENTS

ご挨拶 Swift 東アジア担当 アラン・デルフォッセ

日本スイフトユーザーグループ

チェアパーソンからのメッセージ 株式会社みずほ銀行 トランザクション業務部 担当部長 渡邊 操 様

決済のための ISO20022: 2023年の重要なマイルストーン展望

決済の未来を築く

テストの成功により CBDC のクロスボーダー利用への道を拓く

Swift Securities View

より速く、よりスマートに、より良く: 決済とセキュリティの未来を形作る

Swift カスタマーサポートセンターの利用について: 01



Swift

日本のSwiftコミュニティの皆さまには平素より格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

Swiftは今年で設立50周年を迎えます。1973年の設立以来、クロスボーダー決済の世界は大きく発展してきましたが、金融業界への貢献に向けてさらに努力を重ねてまいります。

お客さまは、迅速で透明性が高い決済を求め、豊富なデータと完全なトレーサビリティ(履歴管理)を望んでいます。2017年に金融コミュニティと共同でSwift gpiを立ち上げて以来、クロスボーダー決済は大きく進歩し、迅速かつ円滑に送金先に到達することを妨げるフリクションが大幅に減少しましたが、改善の余地はまだあります。このニュースレターで、当社が見据える決済の未来像と、その実現のためにコミュニティと共に計画している取り組みをご紹介します。

世界の国内市場インフラにおいて、金融メッセージ標準規格ISO 20022の採用が進んでいます。今年3月、業界はクロスボーダー取引においてこの規格への移行を開始し、最近、当社の新たな取引管理プラットフォームの立ち上げによって移行が完了しました。この取り組みは、決済の未来像の実現に向けて、コミュニティにさらなる価値をもたらします。ISOおよびMTメッセージの共存期間の始まりは、コミュニティにとって多くのマイルストーンをもたらすものであり、このニュースレターではその概要をご説明します。

また、当社は業界で日常的に活用される新技術の革新と探求を続けています。本号では、中央銀行デジタル通貨(CBDC)への関心の高まりと相互運用性の必要性、そしてAPI戦略についての2つのトピックを取り上げます。

また、発売以来急速に勢いを増している「Securities View」の最新情報について今回のニュースレターにてお伝えします。

この9月にトロントで開催されるSibosでは、グローバルな金融コミュニティが一堂に会し、これらを含むさまざまなトピックが議論される予定です。皆さまとお会いし、引き続きお話しできることを心待ちにしております。

最後に、ご存知のように、みずほ銀行の渡邊氏が日本における新たなSUG会長に就任しました。新たな役職に就任された渡邊氏に、ぜひこのニュースレターを通じてご挨拶していただきたく思います。

日本のSwiftコミュニティの皆様からいただいたご愛顧とご信頼に心から感謝申し上げます。今後とも、ご厚情をいただき、引き続きお力添えいただけますよう、お願い申し上げます。



Swift東アジア担当
アラン・デルフォッセ

クロスボーダー送金改善に向けた世界の潮流

日本スイフトユーザーグループのチェアパーソン、株式会社みずほ銀行 トランザクション業務部 担当部長 渡邊 操 様からメッセージをいただきました。



3月よりチェアパーソンを務めております。スイフトユーザーの皆様には、日頃よりコミュニティ運営にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。

私は長らく海外トランザクションバンキング業務に従事しており、各地域の地場決済サービスから、クロスボーダープーリング・マルチバンクプーリング等まで、様々なキャッシュマネジメントサービスの新商品開発・営業を推進してまいりました。古くは、スイフトルームでのメッセージ手打鍵、中継銀行等に架電してお客さま資金の追跡・取り戻す等の業務も経験してまいりましたが、現在はgpiで簡単にステータスをトラック・共有できるようになっており、最近のスイフトサービスのイノベーション進展には隔世の感があります。

スイフトを利用する金融機関等を取り巻く環境も大きく変わってきております。技術革新に伴い、決済ビジネスのバリアが低くなってきており、既存事業者はこれまで以上にスピーディーな取引処理やセキュリティ強化、多様化する顧客ニーズへの対応等が求められています。スイフトにおいては、インスタントかつフリクションのないクロスボーダー送金の実現に向け、Swift GoやPre-Validation等新しいサービスを展開し、更なるイノベーションを追求してくれています。私たち日本スイフトユーザー

グループも、これまで以上にタイムリーな情報共有を行い、スイフトサービスの改善に寄与していきたいと考えています。

クロスボーダー送金改善に向けては世界的な潮流が生まれています。G20では、(1)コスト、(2)スピード、(3)アクセス、(4)透明性を改善するロードマップと2027年に達成を目指す目標が掲げられており、民間レベルでも議論が注目されています。直近の動向として、BIS決済市場インフラ委員会主催のクロスボーダー送金改善にかかる官民タスクフォースが立ち上っており、私も全銀協を代表して議論に参加させていただいております。

タスクフォースの主要な論点として、(1)各国地場決済への参加資格拡大、(2)サービス稼働時間の延長、(3)各国決済システム間の相互運用が挙げられています。ISO20022への対応にもフォーカスが当てられています。会議においては、日本の銀行としてサービス改善・各国との協調に賛同しつつ、タスクフォースに課題点を投げかけています。

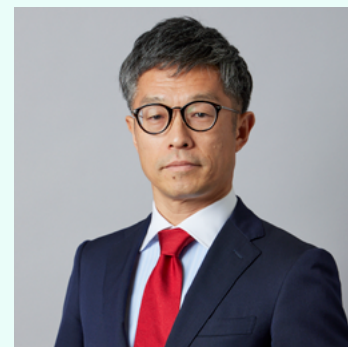
具体的には、参加資格の問題にはリスク管理や各機関主権に関する検討課題があること、稼働時間の延長にはニーズやメリットに懐疑的な意見があること、相互運用には言語や各国の法規制に対応する問題があること等が挙げられます。さらに、コスト・スピードの観点で重要視されるのはAML/CFT・外為規制をどのように考えるか、当局リードによるアクセラとブレーキの調和が必要であることにも言及しています。

これらは簡単に答えが出るものではありませんので、今後、規制当局や金融機

関、テクノロジープロバイダ等、異なる国の利害関係者が協力して課題を特定し、情報や取引を交換するための共通の枠組みを確立するプロセスを経ていくことになると思われます。

我々としては、日本コミュニティとして連携を強化し、この世界的な議論が日本の個別状況をも踏まえた適切なものになるよう意見を述べ影響を与えつつ、クロスボーダー送金改善の議論に貢献していきたいと思っております。

足元のISO20022発信対応への準備を含め、世界のSwiftユーザーグループと共に、改善に向けた取り組みを進めてまいりましょう。今後ともご協力よろしくお願いたします。



株式会社みずほ銀行
トランザクション業務部 担当部長
渡邊 操 様

世界の金融業界が何年もかけて準備してきた国際送金と口座情報 (Cross-Border Payments and Reporting Plus, CBPR+) のISO 20022への移行が、3月20日に無事開始されました。

それ以来、1日平均500,000以上のCBPR+メッセージが交換され、Swiftのネットワーク上の国際送金電文全体の約15%に相当し、FINと同等の低い否定応答 (NACK) 率が確認されています。CBPR+の送受信には、送信側で1,000以上のBIC、受信側で5,000以上のBICが関与しています。受信電文の4分の1は、受付電文へ翻訳を行うことなく初からISO 20022フォーマットで送信されています。

共存の始まりと新たな可能性

これは決済業界にとって重要なマイルストーンであり、2025年11月まで続く共存期間の開始を意味します。この期間中は、MTとISO 20022の両方のメッセージがサポートされ、金融機関はそれぞれのペースで新規格に移行することができます。CBPR+ ワークグループは、最初の数日間の電文を分析し、利用ガイドラインを定めました。本ガイドラインに従うことで得られる重要なメリットが該当の [Knowledge Base5026002](#) に掲載されています。

動き出した国内市場

オーストラリア (RITS)、カナダ (LYNX)、ヨーロッパ (EURO 1および T2)、ニュージーランド (ESAS) などといった主要な国内市場の即時グロス決済システム (RTGS) も2023年3月20日にISO 20022への移行を開始し、今後数ヶ月から数年にかけて他のシステムも稼働する予定です。ヨーロッパの2つのシステムが「ビッグバン」モードで移行したのに対し、オーストラリア、カナダ、ニュージーランドは共存期間を設けた移行を開始しました。

Swiftの製品とサービスも本番稼働をサポート

お客様は、共存期間の開始時からCBPR+やRTGS ISO 20022のメッセージの処理とスクリーニングを行うことができます。gpi Tracker、Swiftトランザクション・スクリーニング (TSS)、ペイメント・コントロール・サービス (PCS) といった当社の付加価値製品やサービスも、初日からISO 20022メッセージの処理に成功しました。

トランザクション・マネージャーの準備

2023年5月29日より、トランザクション・マネージャーにおいて即時決済取り扱いの強化が開始されました。当社は、ISO 20022電文をトランザクション・マネージャーに徐々に蓄積していくことを目指しており、最初は少量から始め、将来的にはすべてのISO 20022電文に対応できるように強化してまいります。

本構築プロセスでは、エンドツーエンドでリッチデータを保存するトランザクション・マネージャーの価値を早急に実現するため、リッチデータを含む取引電文を優先的に取り扱います。取り扱いの強化は以下の3つのステージを経て実施します。

- **ステージ 1**: リッチデータを含む pacs.008(顧客送金)と pacs.009COV(Cover用銀行間付替)(ISO20022の送金電文)
- **ステージ 2**: リッチデータを含む pacs.008、pacs.009COV、pacs.009 CORE/ADV
- **ステージ 3**: 対象となるすべてのISO 20022メッセージ

取り扱い強化の詳細については、[トランザクション・マネージャー・サービス説明書](#)をご覧ください。その他、最近のトランザクション・マネージャー関連文書については、利用に必要な情報を含んでおり、本記事の末尾に記載しています。

2023年におけるCBPR+のマイルストーン

2023年11月に、CBPR+の利用ガイドラインにおいて次の変更を実施します。本ガイドラインは、小切手、口座振替、およびいくつかの特定の利用例をカバーしています。ガイドラインは現在 [MyStandards](#) で入手可能で、[Readiness Portal](#) ではテスト利用ができます。スタンダードリリースのスケジュールに沿った、さらなる展開計画は以下の通りです。

- 2023年5月6日より、FINplus ITB Futureサービスにてベンダー向けにテスト提供開始
- トランスレーション・ポータルは2023年6月16日に更新予定
- FINplus Pilot Futureサービスでのお客様向けテスト提供は2023年7月23日より開始

- FINplus Liveおよび Pilot Current サービスの一般提供は2023年11月19日より開始

詳細は [Knowledge base 5025845](#) をご覧ください。

RMA 2023の計画

昨年のRMA(Relationship Management Application) ブートストラップでは、決済メッセージのFINとFINplusの間でスタートタイミングを同期させることに焦点を当てました。今年も2023年11月に予定されているいくつかのメッセージに、ブートストラップが実施される予定です。

MT 110、MT 111、MT 112、MT 292 の既存FIN用オーソリゼーションに基づき、camt.107、camt.108、camt.109、camt.058メッセージに対してオーソリゼーションがブートストラップされる予定です。本ブートストラップは、2023年9月に実施する予定です。

2022年と同様に、FINカテゴリ9電文について、camt.052、camt.053、camt.054メッセージのオーソリゼーションをブートストラップする選択肢も用意される予定です。ご興味のある方は、2023年5月から提供されているe-orderフォームから申し込む必要があります。実装は2023年9月に予定されています。最後に、2023年には、ローカルからセントラルへのRMA管理への移行も予定されています。中央のRMAポータルからのアクティベーションは、パイロット環境と本番環境の両方で利用可能です。

手順は [RMAポータル入門ガイド](#) を、RMA Evolutionロードマップの概要につ

いては [Knowledge base 5023348](#) をご覧ください。

ISO 20022 Payment Initiation Relay(リレー送金依頼)に関する新ルールブック

リレー送金依頼の手続きでは、集約的な金融機関であるフォワーディングエージェント(転送銀行)が、依頼人による送金依頼メッセージを受け取り、送金銀行にリレーして国内および国際送金を行います。これは、マルチバンク取引を有する事業法人の国際送金業務のニーズ応えるための仕組みです。

現行の送金リレーサービスは、MT101メッセージに基づいています。しかし、CBPR+の移行の一環として、銀行は2025年11月までに既存の銀行間MT101リレー電文をFINplusサービスのpain.001に移行する必要があります。これにより、既存のFINサービスレベルアグリーメントは、2023年3月17日に発表された新しい [ISO 20022 Payment Initiation Relay Rulebook](#) に置き換えられることとなります。

本ルールブックは、送金銀行と転送銀行の役割と責任を明確に定義し、ISO 20022データモデルを使用して、より良いビジネス関係を構築し、事業法人顧客に高品質なサービスを相互に提供することを支援します。

5月に一連の専用ウェビナーを通じて本ルールブックを紹介し、実際に中継フローを移行する際に重要な前提条件となる加盟・公表プロセスについて詳しく説明しました。

市場インフラ向けISO 20022

当社は、市場インフラ(MI)やコミュニティがISO 20022を採用することを、さまざまな方法でサポートしています。

ISO Accelerator Pack は、ISO 20022を未だ導入していない市場インフラにとって、より迅速な導入と調和を促進するための費用対効果の高い効率的なソリューションです。詳細については、最新のインフォメーション・シートをご覧ください。Swiftの担当者にお問い合わせください。市場インフラ事業者がISO 20022およびHVPS+の使用ガイドラインをよりよく準備、計画、採用できるように、[MI採用ガイド](#)を用意しています。本ガイドには、スケジュール、チェックリスト、推奨手順、リソースが含まれています。ISO 20022を採用するMIに参加する金融機関を支援するため、2023年第2四半期にMI参加者採用ガイドを提供する予定です。

CBPR+ ドキュメンテーション

CBPR+ は、[「Getting Started」](#)と[「Customer Adoption Guide」](#)を更新し、初期準備から共存のトピックに焦点を移したドキュメントを公開しました。

また、2023年第2四半期には、[SWIFTSmart](#)で追加の解説ビデオとeラーニングモジュールが利用可能となる予定です。最近のモジュールのFINplusや他のInterActサービスで利用できるさまざまなコピー機能について学びたい場合には、[「Introduction to Inform Copy Service」](#)というモジュールが用意されています。

トランザクション・マネージャー・ドキュメント

本番稼働を間近に控える中、本トランザクション・マネージャー概要にアクセスすることで、十分な準備をすることができます。[「Transaction Manager Briefing: Preparing for Transaction Manager Activation」](#)をご覧ください。

[SWIFTSmart](#)では、「トランザクション・マネージャーのビジネス検証 - 主要要件と追加学習モジュール」について、より詳細な説明を近日中に公開する予定です。Swiftプラットフォームの進化に関する情報を更新しました。ナレッジセンターで入手可能な[「Your Questions Answered」](#)ドキュメントを更新しました。

国際送金はすでに迅速で且つ透明性の高い手段となり、予定通りに着金することを妨げる障害は大幅に減少しています。しかし、まだ改善の余地があると考えられます。決済の未来とはどのようなものであり、金融コミュニティはそれを実現するためにどのような取り組みをしているのかを検討しました。

国際送金は、これまでに長い道のりを経てきました。最近の改善により、透明性が高く、フリクションが少なく、かつてないほど迅速な決済が可能になりました。しかし、まだ進歩が必要です。どのような将来像が描けるでしょうか？相互接続されたインスタント・ペイメント・システムにより、国際送金が顧客の立場からほぼ自然な形で行われ、当たり前のようになる世界は実現可能でしょうか。

インスタント・ペイメントから中央銀行デジタル通貨(CBDC)まで、さまざまな新たなデジタル技術が、ISO20022の業界全体への普及と並行して、クロスボーダーの風景を根本的に変える可能性を持っています。当社は金融業界と密接に連携し、より明るい決済の未来をすべての人々に提供するために努力しています。

ここでは、そのような未来がどのようなものなのか、そしてその実現に向けて現在進行中の作業について詳しくみていきましょう。

Swiftの最高戦略責任者であるティエリー・チロシ(Thierry Chilos)は、次のように述べています。



Swiftのネットワークを通じて行われる国際送金では、エンドツーエンドの追跡、手数料や為替レートの透明性、数分または数秒で完了する高速な取引など、大幅な改善がもたらされました。

変革の原動力

Swiftの最高戦略責任者であるティエリー・チロシ(Thierry Chilos)は、次のように述べています。「近年、当社のネットワークを通じて行われる国際送金では、エンドツーエンドの追跡、手数料や為替レートの透明性、数分または数秒で完了する高速な取引スピードなど、大幅な改善がもたらされました。しかし、決済の世界は絶えず進化しており、我々も同様に進化しなければなりません。」

G20は、国境を越えた決済におけるスピード、コスト、透明性、選択肢、アクセシビリティの改善を目指し、それを達成するためのロードマップを策定しました。そして、これらの目標を達成するための新しい開発が進んでいます。では、このような変化の原動力は何でしょうか。

- **競争の激化:** 決済の分野では、大手企業から代替的なソリューションプロバイダーやフィンテックまで、あらゆるレベルで競争が激化しています。
- **コネクションの構築:** 国内の市場インフラは、相互接続と相互運用性を求められるようになりました。その結果、CBDCからインスタント・ペイメントまで、新たな決済方法が模索されています。
- **フロントエンドの革新:** 新しいアプリやeコマース・プラットフォームの台頭など、フロントエンドでも大きな進展が見られます。

これらの要因に対応するため、銀行はSwiftとともに提供するサービスを進化させていきます。

まず、金融機関は、すべての支払いが事前検証され、フリクションがなくインスタントに行われる世界を目指し、常に効率を向上させることを目指しています。例えば、事前検証サービスでは、送金指図が送信される前に、対象の口座が存在するかどうか、特定の国で目的コードが必要かどうかなど、銀行が重要な情報を確認することで、その送金がキャンセルや変更になるリスクを低減します。また、Swift Goは、エンドカスタマーの銀行口座から直接送金できる迅速で簡単かつ予測可能な送金を促進し、消費者や中小企業(SME)の国際送金の顧客体験を向上させています。

一方、ISO20022への世界的な移行は、単なる制度的な取り組みではありません。これは、取引のライフサイクル全体において新たな機会を提供し、サービスを向上させる機会を提供するものです。

相互運用性に関しては、市場インフラを接続し、CBDCが既存のインフラと協調して機能することを可能にし、断片化のリスクを回避するために重要な役割を果たしています。最近の実験では、CBDCを既存のRTGS決済システムと連携させることに成功し、大きな進展がありました。

また、銀行はフロントエンドで革新的なサービスを提供し、それをeコマース取引に組

み込むことで協力しています。その顕著な例が、SWIFT gpiです。ウェルズ・ファースト・グローバル・トレジャリー・マネジメントの決済・トランザクションサービス担当エグゼクティブ・バイスプレジデントであるジョン・ハンター(John Hunter)氏は、次のように述べています。「gpiのデータをフロントエンドシステムに組み込み、照合を自動化するサービスを開発しました。これによって、大きな差別化が可能になりました。」

地域社会全体のメリット

シームレスで透明性の高い送金が完全に組み込まれることで、決済は円滑に実行され、明るい金融の未来が実現します。このような状況では、多様なプロバイダー、競争力のあるサービス、高度な相互運用性が重要な要素となります。では、これらが消費者、企業、銀行にどのようなメリットをもたらすでしょうか。

消費者と中小企業にとっては、透明性の向上、費用対効果の改善、利便性の実現が最も大きな利益となるでしょう。中小企業にとっては、より良く構造化された情報に基づいて入金された送金を容易に照合できるようになります。その結果、企業は受け取った資金を迅速にサプライヤーへの支払いに充てることができ、支払いが完了を待たずに次のプロジェクトに取り掛かることができるようになります。

大企業とその財務部門にとっては、現金と流動性の管理は依然として最重要な課題です。ホールセールでの支払いはすでに迅速化され、取引の状況やライフサイクルの進捗がより透明になっていますが、次の大きな課題は流動性管理の改善にあります。

金利の上昇や経済状況の変動が重要な課題となる中、企業は正確な現金の利用額を把握する必要があります。そのため、当社はコミュニティと連携し、APIを活用して企業の口座残高や明細をリアルタイムで確認できるようにする取り組みを進めています。他にも、デジタル化と自動化、不正行為とコンプライアンス、ESGなどが大企業の優先課題として挙げられます。

一方、銀行にとっては、Swiftのロードマップは現在と将来のエンドカスタマーの進化するニーズに対応する方法を示しています。前出のハンター氏は次のように述べています。「銀行が協力し、金融インフラ全体で決済のあり方を刷新する大きなチャンスがあります。サービスのフリクションをなくし、相互運用性を高め、ネットワーク上に付加価値のあるサービスを構築することができれば、何百ものことが可能になります。」

銀行が協力し、金融インフラ全体で決済のあり方を刷新する大きなチャンスがあります。

ウェルズ・ファースト・グローバル・トレジャリー・マネジメント ペイメント・トランザクション・サービス担当エグゼクティブ・バイスプレジデント ジョン・ハンター(John Hunter)氏

将来を見据えたソリューション

では、今考えられている送金の改善策が、今後数年間の業界のニーズを満たすのに十分なものであるかどうかを確認するには、どうすればよいのでしょうか？

ISO 20022は、より豊かで相互にリンクした将来の送金に必要な強固な基盤を構築するために重要な役割を果たします。また、当社が取り組んでいる相互運用性とイノベーションは、これらの新しいサービスを取りまとめ、付加価値の高いサービスの導入を可能にする上で重要な役割を果たすでしょう。

現代のテクノロジーは、さまざまな方法でお金をリアルタイムで動かすことを可能にしています。しかし、国境を越えた真のリアルタイム送金を実現するには、さらなる取り組みが必要です。ISO 20022は、現在存在する障壁を取り除くことを可能にします。この規格の導入により、コルレス銀行のモデルは、技術の進歩や新たなプレイヤーの参入に合わせて進化することができます。

当行は決済のあり方に革命を起こす絶好の機会に恵まれています。Swiftが提案したビジョンには、そこに到達するための道筋が示されています。改善するために必要な投資を行うことができるかどうかは、私たち次第です。

BNPパリバ ペイメント&レシバブル部門グローバルヘッド ブルノ・メラド(Bruno Mellado)氏



共に未来を築く

これらの進展は、単独で達成できません。各銀行、国、そして業界全体が、より良い決済の未来を実現するために変化をし、イノベーションを取り入れる必要があります。

SwiftのChilos(前出)は次のように述べています。「当社の広範なネットワークと活発なコミュニティは、より結束し相互に接続された送金の未来を実現する上で重要な役割を果たしています。当社は、コミュニティと密接に連絡を取りながら、協力と共創に焦点を当て、総合力を発揮しています。これにより、勢いと変化を受け入れるだけでなく、当社が共同で開発したソリューションを採用するメンバーのコミットメントを生み出すことができます。このアプローチは、最終的に、お客様、企業、銀行、そして業界全体が、安全かつ簡単にアクセスできる摩擦のない取引から利益を享受することを可能にするものです。」

BNPパリバのペイメント&レシバブル部門グローバルヘッドであるブルノ・メラド(Bruno Mellado)氏は次のように述べています。「当行は決済のあり方に革命を起こす千絶好の機会に恵まれています。Swiftが提案したビジョンには、そこに到達するための道筋が示されています。改善するために必要な投資を行うことができるかどうかは、私たち次第です。」

テストの成功により
CBDCのクロスボーダー
利用への道を拓く



中央銀行と商業銀行は、サンドボックス環境でのテスト成功を受け、Swiftの先駆的なCBDC相互運用性ソリューションに「明確な可能性と価値」を認める。

中央銀行デジタル通貨(CBDC)は、ますます注目を集めており、勢いを増しています。世界中の中央銀行は、デジタルマネーを現地国内市場で使用する可能性を模索していますが、世界の決済シーンは進化し続けています。さまざまな価値形態をシームレスに相互運用ができる状態を実現するためには、どのような取り組みが必要なのでしょうか？

新たなイノベーションとともに相互運用性を可能にすることは、当社にとって重要な要素であり、またデジタル通貨の発展が進む金融業界全体にとっても重要な課題となっています。現在、大西洋評議会によると、110以上の国が現在CBDCを検討しており、最近のOMFIF デジタル通貨研究所の調査によれば、約4分の1の国が1~2年以内にCBDCの利用を開始する予定です。

ただし、多くの中央銀行は主に国内利用に重点を置いており、相互運用性に対応していない独立したシステムが乱立する状態にあり、「デジタルアイランド」と呼ばれる断片的な状況を招く恐れがあります。

Swiftのチーフ・イノベーション・オフィサーであるトム・ツィシャッハ(Tom Zschach)は次のように述べています。

Swift のソリューションは、2つの異なるブロックチェーンネットワークと従来の法定通貨の間の約5,000件の取引に対して、堅牢であることが証明され、それをさらに発展させるためにSwiftコミュニティのサポートを得られたことを嬉しく思います。

デジタルアイランドを繋ぐ 最新の実験結果

CBDCの進化に伴い、国境を越えても使用可能にするための課題を克服するために、金融業界と緊密に協力しています。昨年10月、当社はCBDCが既存の金融インフラを活用し、分散型台帳技術(DLT)ベースのCBDCと法定通貨の決済システムとの間で決済が可能なソリューションを開発したことを発表しました。

本ソリューションは、今回18の中央銀行や商業銀行との実証実験環境(サンドボックス)でテストされました。参加者は、異なるプラットフォームで構築されたCBDCでもシームレスな取引が可能であることを確認し、本ソリューションの開発継続に強い支持を表明しました。

Swiftのチーフ・イノベーション・オフィサーであるトム・ツィシャッハ(Tom Zschach)は次のように述べています。「本実証実験は、デジタル通貨と伝統的な通貨が共存する

テストの成功によりCBDCのクロスボーダー利用への道を拓く

金融エコシステムにおいて、Swiftが果たすことのできる重要な役割を示しています。]

「当社のソリューションは、2つの異なるブロックチェーンネットワークと従来の法定通貨の約5,000件の取引に対して堅牢であることが証明され、それをさらに発展させるためにSwiftコミュニティのサポートを得られたことを嬉しく思います。多くの参加者が、相互運用性についての継続的な協力を望むことを明らかにしており、これは特に喜ばしいことです。」

グローバルなコラボレーション、責任あるイノベーション

本ソリューションの開発と実証実験は、まさにグローバルな共同作業でした。フランス銀行、ドイツ連邦銀行、シンガポール通貨庁、BNPパリバ、HSBC、インテザ・サンパオロ、ナットウエスト、カナダロイヤル銀行、三井住友銀行、ソシエテ・ジェネラル、スタンダードチャータード銀行、UBSが本実証実験に参加しています。さらに、4つの中央銀行はオブザーバーとして参加し、意見や考えを提供しました。

12週間の共同実証実験期間中、参加者はクォーラム (Quorum) とコルダ (Corda) ブロックチェーンネットワーク間、およびコルダ (Corda) と法定通貨間で合計4,736件の取引を処理しました。

今後数カ月の間に、中央銀行がさらにテストできる決済用ソリューションのベータ版を開発する予定です。また、証券決済 (クロスアセット交換など)、貿易金融、条件付き決済など、新たな利用例に焦点を当て、Swiftのコミュニティがさらに協力できる実証実験の第2フェーズも開催される予定です。

インスタント、フリクシオンのなさ、そして相互運用性

技術の進化により、グローバルな決済分野では、金融サービスにおける新たな可能性が広がっています。Swiftのコミュニティと協力して、現実的なソリューションの実験、イノベーションに取り組んでいくことで、当社戦略の焦点であるインスタントでフリクシオンのない、相互運用可能な国境を越えた取引、その中で形成される価値を実現していきます。

当社のコミュニティには、200以上の国や地域で40億の口座を持つ1,500以上の金融機関が参加しており、当社は世界経済における重要な役割を果たしている基本的な金融インフラの変革を支援し、世界中の企業や消費者の急速に変化するニーズと期待に応えることに注力しています。

CBDC実証実験の報告書はこちらから:

報告書「Connecting digital islands: Swift CBDC サンドボックス・プロジェクト」の詳細については、こちらをご覧ください。

コミュニティからのコメント

BNPパリバの決済・債権部門グローバルヘッドであるブルーノ・メラド (Bruno Mellado) 氏は、次のように述べています。「CBDCを利用した新たな決済手段が生まれる中、コミュニティとしてSwiftとともに構築された安全で透明性の高いユーティリティと標準を活用することが重要です。本実証実験は、当事者間の新しい革新的な取引方法にアクセスするための産業的アプローチへの道筋を示しています。」

HSBCのグローバル・ペイメント・ソリューションズ、国内&新興国決済担当グローバル部門長であるルイス・サン (Lewis Sun) 氏は次のように述べています。「相互運用性は、リアルタイムで国際送金を実現するCBDCの可能性を実現するための鍵です。CBDCへの関心が高まる一方で、さまざまな技術や規格が試行錯誤されているため、断片化のリスクも高まっています。Swift、中央銀行、その他の商業銀行との継続的な協力関係は、より速く、より経済的、より安全な国際送金を実現するソリューションを革新するための貴重なプラットフォームを提供します。」

インターサ・サンパオロのエグゼクティブ・ディレクターであるステファノ・ファヴァーレ (Stefano Favale) 氏は、次のように述べています。「CBDCに関しては、相互運用性が流動性の罅を回避し、ネットワーク効果を生み出すための重要な役割を果たします。当行は、今後新たなデジタル資産の開発をサポートするにあたり、市場において中立的立場にいるSwiftが最適な候補者であると確信しています。」

ナットウエストのペイメント戦略・研究部門長であるリー・マクナブ (Lee McNabb) 氏は、次のように述べています。「中央銀行、Swift、同業者と協力することで、参加者は貴重な教訓を共有し、当行も知見を提供することができました。当行は、このようなコラボレーションと実験のサポートが奏功すると信じています。本実証実験は、新しい技術の可能性を利用し、インスタントでフリクションのない国際送金を実現するという、同じ目的を持った金融機関が協力できることを示す具体例です。」

ソシエテ・ジェネラルのキャッシュクリアリングオフィサーのグローバル部門長であるイザベル・プジグ (Isabelle Poussigues) 氏は、次のように述べています。「本実証実験への参加により、セキュリティと堅牢性で知られるSwiftの既存のインフラと強化されたプラットフォームが提供できる機会の両方を活用しながら、CBDC/CBDCおよびCBDC/法廷通貨間の相互接続ソリューションの可能性とそれらがもたらす課題を具体的に思い描くことができました。」

スタンダードチャータード銀行のペイメント部門長であるデビッド・レゴ (David Rego) 氏は、次のように述べています。「通貨のデジタル化において、安全でフリクションのない、進化した国際送金の流れには、オープンで相互運用可能なアーキテクチャが不可欠です。当行が本実証実験に参加することは、イノベーションへのコミットメントを強調するものであり、未来に対応した機能をお客様に提供することを意味します。」

証券決済取引のフェイル削減を目指し、証券業界で急速に導入が進む「Swift Securities View」を紹介

世界の主要34金融機関が、ポストトレード処理における明確なトラッキング機能を通じて、証券決済取引のフェイルを削減させるための新サービスに契約しました。

現在では、荷物の追跡は世界中で一般的であり、ピザの配達状況さえも把握できます。この追跡機能は、国境を越えた送金にも応用されています。しかしながら、証券取引においては、決済チェーン全体を追跡することが最近まで不可能でした。

今回紹介する新サービスである「Swift Securities View」は、それを可能にしました。

Swiftの証券戦略責任者であるジョナサン・エレンフェルド (Jonathan Ehrenfeld) は、次のように述べています。

「Swift Securities Viewは、当社の戦略の重要な要素となり、世界的にインスタントかつフリクションのない、相互運用可能な取引を実現することを目指しています。この取り組みは市場参加者が決済の効率性を向上させ、将来のイノベーションの基準を確立することを支援し、この業界に変革をもたらすでしょう。」

当社は金融コミュニティと協力し、決済遅延による規制上のペナルティの回避からT+1採用への準備まで、証券決済関係者が今日直面している特定の諸問題を解決するために、独自にデザインされたサービスを提供します。

フェイルを回避し、コストを削減

Swift Securities Viewは、証券業界と共同で開発され、ポストトレード処理に新しいレベルの透明性を提供します。このプラットフォームは、証券業界における証券決済のフェイルによって毎年何十億ドルもの損失が生じている問題を軽減するための鍵となります。

EUの中央証券保管振替機構 (CSDR) の決済規律体制や主要市場が世界的に決済サイクルの短縮を求め中、金融機関が対策を講じない限り、決済のフェイルとそれに伴うコストは一層増大することが予想されます。

Swiftの証券戦略責任者であるジョナサン・エレンフェルド (Jonathan Ehrenfeld) は、次のように述べています。

「当社は金融コミュニティと協力し、決済遅延による規制上のペナルティの回避からT+1の採用に向けた準備まで、証券決済関係者が今日直面している特定の諸問題を解決するために、独自にデザインされたサービスを提供します。」

本サービスでは、ISO標準のUnique Transaction Identifier (UTI) を活用し、同じ証券決

決済フローに関連するすべてのSwiftメッセージを取引チェーンでリンクします。これにより、機関投資家から証券会社、グローバルカストディアン、証券決済機関(CSD)まで、参加者全員が取引の両側で自動化された追跡機能にアクセスできるようになります。

なぜ決済のフェイルを解決しなければならないのでしょうか？

より明確な状況を把握することができます。

Swift Securities Viewでは、証券取引を追跡して問題を迅速に特定し、コストのかかる決済のフェイルを回避することができます。

迅速な導入

今年1月のサービス開始以来、本サービスは証券業界全体で成果を収めており、好調に推移しています。

現在、世界の主要な金融機関34社がSwift Securities Viewに契約しており、年間計6億3,000万件以上の証券取引を総括しています。本サービスにより、フェイルするリスクのある取引を迅速に特定し、先手を打つことができます。

当社は、パイロット版の成功を受けて、参加者が決済プロセスの各ステップを明確に把握し、国際送金に匹敵する透明性を証券にもたらすことを目指して、本サービスを開始しました。その結果、よりシームレスな体験を実現し、年間約30億ドルにも上る決済のフェイルによる運用コストを削減する可能性が高まりました。

本サービス開始から数カ月で、機関投資家、アウトソーサー、ブローカー、グローバルおよびサブカストディアン、CSDなど、決済プロセスのあらゆる段階に携わる参加者が積極的に利用しています。

契約状況

現在までにSwift Securities Viewに契約した34の金融機関は以下の通りです。

アブダビ投資庁(ADIA)、BNYメロン、中国中信銀行、シトコグループ、クレディ・スイス、日本カストディ銀行(CBJ)、ダイナソー・マーチャントバンク、ユーロネクスト証券、ファーストアブダビ銀行、HSBC証券サービス、リーガル・アンド・ジェネラル・インベストメント・マネジメント(LGIM)、野村アセットマネジメント、ノムラ・バンク・ルクセンブルグ、ノーザントラスト投資業務アウトソーシング、ノーザントラスト社およびスカンジナビスカ・エンシルダ銀行(SEB)

なお、DTCCは、セントラルマッチングプラットフォームであるCTMで確認された取引についてUTIを生成することで、本サービスをサポートしています。

お客様のコメント

BNY メロンのエグゼクティブ・マネージャー、マーケットスマネジメントのグローバルヘッドであるスティーブ・ウェイジャー(Steve Wager)氏は、次のように述べています。「特に世界中で決済サイクルを短縮する傾向が強まっている中、業界全体でUTIを採用し、Security Viewのアラート機能との組み合わせることで、本サービスはタイムリーな決済の鍵となる可能性があります。」

シトコ・ファンズ・サービシズUSA のシトコ・ファンズ・サービシズ・ミドル・オフィス・ソリューションの責任者であるライアン・フィッツジェラルド(Ryan Fitzgerald)氏は次のように述べています。「Swift Securities Viewは、グローバルな証券エコシステムの改善にとって大きな前進であり、取引のライフサイクルを通じて、取引状況の透明性をはるかに高めることができます。これは、よりタイムリーな方法で取引を確定することを可能にし、すべての関係者に利益をもたらすと考えます。シトコグループ会社がその一翼を担えることを嬉しく思います。」

ダイナソー・マーチャント・バンクのディレクター兼最高執行責任者(COO)であるテネット・アバニラ(Tenette Abanilla)氏は、次のように述べています。「Swift Securities Viewは、決済を遅らせる可能性のある問題を即座に特定することで、証券決済プロセスを大幅に改善します。本サービスの開発・導入に関わる初期グループの一員になったことを嬉しく思います。」

DTCC、機関投資家向け取引処理担当マネージング・ディレクター、マシュー・スタフアー(Matthew Stauffer)氏は、次のように述べています。「DTCCは、取引のライフサイクルを通じてプロセスを合理化し、リスクを軽減する標準の導入を支持しています。UTIの利用を拡大するSwiftの取り組みに協力できることを嬉しく思っています。今日、ユーザーはDTCCのCTMソリューションでUTIをシームレスに活用することができ、標準化されたデータにアクセスしながら効率を高めることができます。これは米国とカナダにおいて掲げている2024年5月までにT+1を達成するという目標に向けて、業界が取り組む上で重要な利点です。」

野村アセットマネジメント、ミドルオフィスグループ長(オペレーション戦略部)の阿部幸四郎氏は、次のように述べています。「Swift Securities Viewは、証券決済に必要なとされる透明性を大幅に改善します。機関投資家にとっては、取引のフェイルを回避することがこれまで以上に重要な課題です。これは、世界的に決済サイクルが短くなっていることや、証券集中保管機関規則(CSDR)によって課される決済遅延のペナルティが原因です。Swift Securities Viewが提供するエンドツーエンドでの可視性により、フェイルのリスクを最小限に抑え、業務効率を向上させることができます。弊社は、すべての市場参加者が参加し、これらの利点を共有することをお勧めします。」

Swift Securities View

ノーザントラスト社のアセット・サービシング担当シニア・ヴァイス・プレジデントであるラス・ステイミー (Russ Stamey) 氏は、次のように述べています。「UTIとSwift Securities Viewの導入により、参加者は証券決済取引の状況についてより透明性の高い情報を得ることができます。例外取引の特定と解決に要する時間が短縮され、決済サイクルが短縮されることができます。これらは、当社とお客様にとってますます重要なことです。また、Swift Securities Viewは、証券決済のライフサイクルにおけるフリクションの原因をより深く理解することができ、業務効率の向上と決済遅延の減少につながります。」

ファーストアブダビ銀行のマネージング・ディレクター、プロダクト・ディベロップメントであるアーマド・ナシール (Ahmad Naseer) 氏は、次のように述べています。「すでにSWIFT gpiを導入している当社は、Swift Securities Viewへのプログラムにも参加できることを喜ばしく思っています。決済効率をさらに高めるために、本サービスが業界で広く採用されることを切望しています。」

より速く、よりスマートに、
より良く：
決済とセキュリティの
未来を形作る

Swiftは、金融業界において中立かつ信頼できるインフラストラクチャプロバイダーとして、世界中の11,000を超える金融機関のコミュニティが確実かつ安全に価値を享受・提供できるよう支援しています。さらに、支援の範囲を拡大し続けており、提供方法も進化しています。

現在、Swiftは大きな飛躍を遂げており、決済とセキュリティのプロセスを根本的に変革し、お客様が現在直面している複雑な課題を解決し、将来に向けて十分な準備を維持できるようサポートしています。

今後2年間およびそれ以降、Swiftはその可能性をさらに拡大し、グローバルコミュニティ向けに包括的なトランザクション管理サービスのプラットフォームを提供し、エキサイティングな戦略的ロードマップも提供される予定です。

国際送金における決済は、高度なコラボレーション、コミュニケーション、コミュニティ、そして信頼性が求められます。Swiftは設立当初からその精神を持ち続け、この体験を可能な限りシンプルに、迅速にかつ安全に提供することを使命としています。

Swiftはコミュニティに大きな機会を提供し、既存のビジネスの改善に取り組みながら、未来に向けた大胆な可能性を切り拓くための措置を講じています。

Swiftのプラットフォームを変革し、エンドツーエンドのトランザクションを一元的に相互連携することによって、スムーズでフリクションのない、国際送金アカウント間の決済の実現に向けて進んでいます。

これにより、決済の実施と必要なコンプライアンスチェックを迅速かつ効率的に行うことができ、セキュリティ面の信頼性を損なわずに、費用効果の高いサービスを提供することができます。また、データ品質の向上、高度な分析と洞察、新しい付加価値サービスの提供が可能となり、顧客にとって新たなエキサイティングな体験をもたらします。

今後2年間でプラットフォームの開発を実施し、gpiや金融犯罪コンプライアンスなど、計画に沿ったサービスの新機能を展開し続けることにより、大規模な移行を回避します。これらのサービスは、Pre-validation(事前検証)や不正検出など、プラットフォームのトランザクション管理機能の構成要素を提供し、プラットフォームの稼働後も拡張機能として引き続き利用可能であり、現在行う投資が将来にわたって保証されます。

本サービスの利点

- **エンドカスタマーエクスペリエンスの向上:** 手数料と処理時間に関する事前の透明性
- **フリクションのない即時取引:** 事前処理およびPre-validation(事前検証)された決済
- **オプションの相互サービス:** データとコンプライアンスのために、フリクションとコストをさらに削減
- **領域の拡大:** 既存ビジネスを強化し、新しい分野で成長

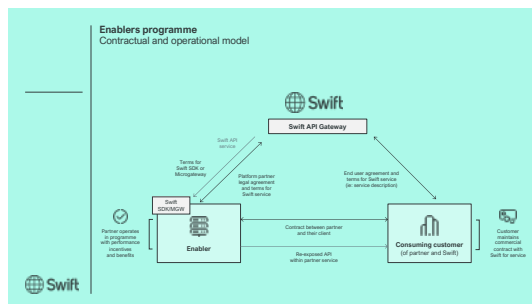
Swiftは、コミュニティのサポートと戦略の達成を目指し、地域、業界、技術の可能性や将来性を通じて一貫した支援体制を確立するために、コンプリメンター(パートナー)との協同体制を推進する専任チームを設立しました。同時に、Swiftはコンプリメンターを活用した一連のモデルを備えた「プラットフォームパートナーシッププログラム」という新しいプログラムを開発しました。

*コンプリメンターとは: 統合または組み込み型エクスペリエンス(パートナーのソリューション)を介してエンドユーザーの商業的ニーズに沿った付加価値サービス、またはシステムインテグレーションを提供するビジネスアプリケーションプロバイダー、または接続コンセントレータのことです。

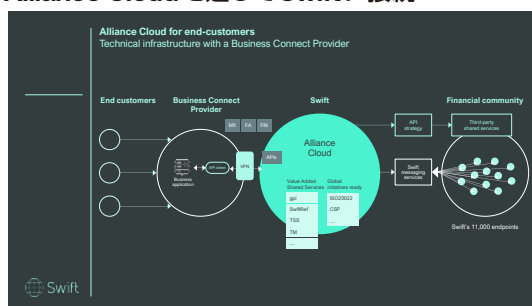
2020年に創設された「プラットフォームパートナーシッププログラム」では、**Value-added Service Enabler(付加価値サービスイネーブラー)**、**Business Connect Enabler(ビジネスコネクティネーブラー)**の2種類のモデルがあります。本プログラムモデルは、コンプリメンターを活用して、組み込み型または統合されたエクスペリエンス(パートナーのソリューション)を介してSwiftおよびコミュニティサービスをメンバーに提供し、Swiftサービスへのアダプトを容易かつシームレスに実現します。

現在、Swift Value-added Service Enabler(付加価値サービスイネーブラー)として16社のコンプリメンターを認定しており、gpi、PreVal、トランザクションスクリーニングなど多数のサービスを提供しています。日本においては、**日鉄ソリューションズ株式会社様が第1号のコンプリメンターとして本年6月に認定**され、今後Swiftと協同でエンドカスタマーへサービスを提供して参ります。ご紹介内容の詳細については、developer.swift.com の [パートナーページ](#)をご覧ください。

1. Value-added Service Enabler(付加価値サービスイネーブラー): SwiftGo、gpi、PreVal、Securities View、TSS など



2. Business Connect Enabler(ビジネスコネクティネーブラー): Alliance Cloudを通じてSwiftに接続



Get in touch with Swift

Swift カスタマー サポートセンターの 利用

01

なお、今回ご紹介するツールはいずれも Swift.com へのログインが必要となりますので、Swift.com の有効なアカウントがあること、かつ Case Manager ツールへのアクセス権が付与されていることをご確認ください。(Swift.com のアカウントは各ユーザーが所有する E-mail アドレスを使用して利用者ごとに発行されます。)

今回から数回に分けて、日本の Swift コミュニティーの皆様がより効果的に Swift カスタマーサポートをご利用いただける一助となる情報をご提供いたします。

初回となる今号では、「サポートケースを起票する前に、コミュニティの皆様が必要な情報をご自身で入手するためのツール」をご紹介いたします。

Knowledge Base (ナレッジベース) 検索

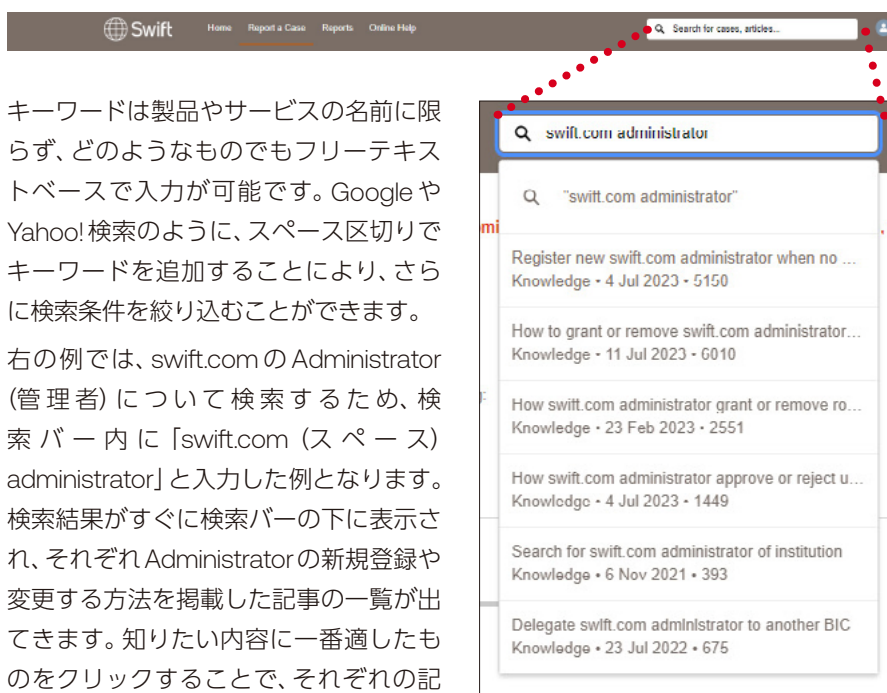
Swift.com にログイン後、My Swift から Case Manager ページに移動すると、画面上部に検索バー (図 1) が表示されます。この検索バーは、入力されたキーワードに従って関係する Knowledge Base (ナレッジベース) を自動で検索し、結果を表示する機能を提供しています。

キーワードは製品やサービスの名前に限らず、どのようなものでもフリーテキストベースで入力が可能です。Google や Yahoo! 検索のように、スペース区切りでキーワードを追加することにより、さらに検索条件を絞り込むことができます。

右の例では、swift.com の Administrator (管理者) について検索するため、検索バー内に「swift.com (スペース) administrator」と入力した例となります。検索結果がすぐに検索バーの下に表示され、それぞれ Administrator の新規登録や変更する方法を掲載した記事の一覧が出てきます。知りたい内容に一番適したものをクリックすることで、それぞれの記事の内容を閲覧できます。

キーワードの組み合わせで、必要な情報をケース起票の前に確認できますので、是非ご利用ください。

使用されるブラウザ (Microsoft Edge, Google Chrome など) の機能によっては、表示されるページ全体を日本語に翻訳することも可能です。こちらも併せてご利用ください。



ISO20022、RMA 向けのチャットボット

ケースマネージャ画面の右下に、オレンジのアイコンが表示されます。これが、ISO20022とRMAに特化したチャットボット(ロボット化されたチャット機能)です。このアイコンを押下するとロボット(Digital Assistant)とのチャットが始まります。最初は、ISO20022とRMAのどちらについて知りたいかを選択します。

「RMA」を選択すると、次に具体的にRMAの何について知りたいかが選べるよう、複数の選択肢が表示されます。選択肢から知りたい内容を選んでクリックすることで、適切な記事が表示されます。

「ISO20022」を選択した場合、細分化された選択肢が複数のステップで表示され、ユーザーが最も適切な情報に行き着けるようにサポートします。

今回ご紹介した検索バーとチャットボットの機能は、サポートケースを起票する前に使えるもので、ケースを起票せずとも問題解決や疑問への答え見つける助けとなります。

今回はさらに踏み込んで、サポートケースを起票する際に参考となる情報を取り上げる予定です。

ISO 20022 & RMA Help

Digital Assistant

I am here to assist. How may I help you?

Hi, I am your Digital Assistant. Please allow me to assist you in accessing our available documentation and point you in the right direction in regards to your ISO 20022 journey or RMA related questions.

Are you looking for help with ISO 20022 or RMA?

Digital Assistant

ISO 20022

RMA

ISO 20022

Where are you currently, in regards to ISO 20022?

Digital Assistant

I am just Getting Started

I am busy with Implementation

I am ready for Testing

I want to troubleshoot an issue



About Swift

Swiftは協同組合組織であり、世界中のほぼすべての国と地域において、金融業界全体で11,000を超える組織にセキュアな金融メッセージサービスを提供しています。50年近くにわたり、絶えず変化する情勢の中、進化を続けることで、確実性、継続性、優位性を提供してきました。急速に環境が変化する今日、以前にも増してつながりが拡大し、取り組むべき課題の多いこの世界において、Swiftのアプローチは、重要度を増しています。詳細については、Swiftアカウント担当にお問い合わせいただくか、www.Swift.comをご覧ください。

スイフト・ジャパン株式会社 (Swift JAPAN LTD.)

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1丁目6番6号 日本生命丸の内ビル 20階

電話：03-5223-7400（代表） FAX: 03-5223-7439

日本語対応： 平日9時～17時30分（日本の銀行休業日を除く）

英語対応： 年中無休 24時間

*日本のサポート時間外は香港、欧州、または米国のサポートセンターに自動転送されます。